



時代のニーズをとらえ メーカーの信頼に応える

遠野市

株式会社プラテック

工業製品に使用される様々なプラスチック部品の製造を手掛ける遠野市の株式会社プラテック。極小部品から大型部品まで「どんな依頼にも応える」という対応と技術力はメーカーからも高い評価を受けている。創業者として会社を牽引してきた鈴木精一社長に話を聞いた。

品質・納期厳守は当然、大事なのは提案力

日本の基幹産業として経済を支えてきた製造業。その歴史は多様であり、なかでも機械加工では家電やデジタル製品、自動車など時代を牽引する工業製品が登場するたびに新たなイノベーションや技術が確立されるなど、常にめまぐるしい変化の中に置かれている。

「特にITバブルやあのリーマンショック以降、製造業の変化もよりグローバルになった。この先の変化は、海外の流れにも注意を払っていかなくてはいけない」。

そう話すのは、遠野市に本社工場を置く株式会社プラテックの鈴木精一社長。射出成形によるプラスチック部品の製造企業として間もなく創業30周年を迎える同社は、まさに時代のニーズに合わせて事業内容を柔軟に変化させてきた。

同市出身で、機械加工の世界に長年たずさわってきた鈴木社長。市内の工業用プラスチック製品メーカー・株式会社トーノ精密の製造課長をつとめ、昭和60年代には西根町（現八幡平市）への新工場建設に尽力する。その実績を買われ、

トーノ精密から全面支援を受けて平成元年に自らの会社を立ち上げた。創業時はちょうどソニーのウォークマンやデジタルカメラなどの全盛期であり、受注も極小部品が中心。しかしICチップの登場による部品点数の減少や海外への工場移転が加速するにともない、同市に進出してきた端子台メーカーからの大型部品受注にも取り組み始める。極小部品から大型部品への大転換だが、「何にでも対応するのが当社のモットー」と鈴木社長。培ってきた技術力をベースにメーカーの依頼に真摯に応え、信頼を積み重ねてきた。

金属部品を樹脂で覆うインサート成形など複雑な機構部品製造にも実績がある同社だが、鈴木社長は「品質や納期を守るのは当然」ときっぱり。その上でプラスアルファ、「提案力」が重要と続ける。仕事の中での気づきや改善点などはメーカーと共有、「仕事はギブアンドテイク」と考えるからだ。そこにはメーカーや下請けといった関係を超え、よりよい製品を作るための仲間意識がにじむ。

そんな取引先からの徹底的な技術指導で始まったという自動車部品製造は、今年4月の本格始動からわずか2ヶ月で売上の3割を超えるまでに急成長。また東京のベンチャー企業からの依頼で医療機器の部品製造にも挑戦、製品は海外での販売も検討されている。

「技術を教えてくれる先輩企業があり、教わったことを忠実に実行してきた。その上でコア技術を維持しながら事業展開をしていく」。

自動車そして医療分野という新たな事業分野へ。穏やかな笑顔たたえながら、鈴木社長は挑戦を続けていく。

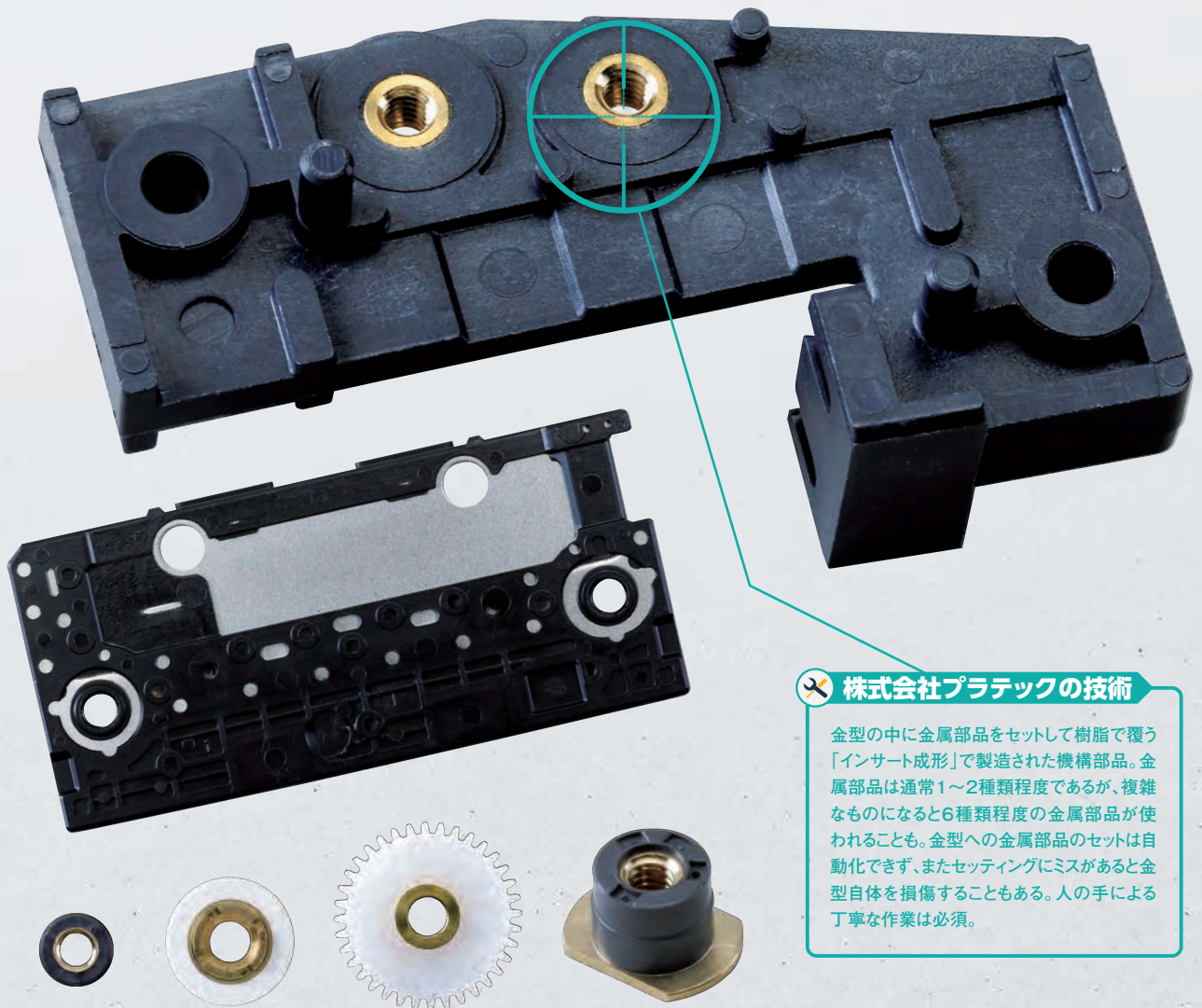
代表取締役
鈴木精一





- | | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ④ |
| | ③ | ⑤ |

①機械への金属部品のセッティングは人の手で行われ、ひとつひとつ丁寧に成形されている。②③樹脂の種類や形状など作る部品により作業時間も変わる。成形から検品まで、常に人の目が光る。④⑤プラスチック成形の元になる金型。成形が続くと金型内にガスが溜まり樹脂が詰まってしまうこともあるため、定期的なメンテナンスも欠かせない。



株式会社プラテックの技術

金型の中に金属部品をセットして樹脂で覆う「インサート成形」で製造された機構部品。金属部品は通常1〜2種類程度であるが、複雑なものになると6種類程度の金属部品が使われることも。金型への金属部品のセットは自動化できず、またセッティングにミスがあると金型自体を損傷することもある。人の手による丁寧な作業は必須。



いわて産業振興センター活用事例

プラスチック成形に欠かせない射出成形機の導入などに当センターの設備貸与制度をこれまでに7度利用。受注数の増加にともなって今年5月にも新たに射出成形機を導入、生産体勢を整えている。

企業データ

会社名 株式会社プラテック
 本社 遠野市青笹町糖前10-27-38
 電話 0198-62-8535
 代表者 鈴木 精一

CORPORATE DATA

創業 平成元年(1989)
 従業員 40名
 業種 プラスチック部品製造